

令和7年度 第2回「ケアマネ勉強会」を開催しました。

6月17日（火）「日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科」中島民恵子教授を講師にお招きし、『「認知症と多職種連携」～認知症の人の暮らしの継続を多職種で支える意義と方法について学ぶ～』をテーマに勉強会を開催しました。

- ①認知症当事者の声から学ぶケアとは、認知症の当事者の視点を理解することの大切さについて理解したり、必要としている事柄や支援について考える
- ②認知症の人と関わる上で大切にしたい視点
認知症当事者は、「経験専門家」であり、その経験や声は、これからの地域・社会に必要な「新たな価値」を含んでいるという視点の重要性
- ③本人のよりよい暮らしをチームで支える
本人にとってのよりよい暮らしを支えていくためには、関わる人が持っている気付きやアイデア、工夫などを共有しながら支援する事が重要
- ④チームを動かす主な力
リーダーシップ、ファシリテーション、コーディネーション
- ⑤多職種連携の7つの視点
ケアの質の向上に努める、利用者と家族のニーズに焦点あてる、利用者と家族とともに学ぶ、それぞれの専門職を尊重する、自分の専門的業務の質を高める、専門職としても満足度を上げる

その後のシンポジウムでは 愛知県認知症希望大使 近藤葉子 様から～「希望する生き方を自ら選び実現できるまち」を目標として～と題して、希望大使の活動紹介をしていただきました。

当日は77名のケアマネジャーの方々にご参加いただきました。

